

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人が主体的に取り組み実現する進路選択 4 保護者・中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 4名 生徒 10名 事務局 (教職員) 7名
-----	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標					年度評価 (1 月 2 3 日 現 在)		実施日 平成 26 年 1 月 29 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>・ 授業態度は、真面目で大変落ち着いており、集中して課題等にも取り組んでいる。アンケート結果より半数以上の生徒が授業の理解はできていると回答し、理解できていないと回答している生徒は、十数パーセントである。この傾向はここ数年変化していない。一方教員側も、生徒の実態を踏まえ理解を深めるため工夫や生徒の意欲を引き出す授業を実践している。</p> <p>・ 調査前の学習習慣は確立している。予習・復習など日常的な学習については、地道に努力している生徒も、まだ少数ではあるが増えては来ている。しかしながら大半の生徒は日常的学習は不足しており、授業の「受身」的傾向は、大きくは変わっていない。</p> <p>・ 進路意識は、徐々に高まりつつあり、新教育課程の内容を理解させ、進路と結び付けさせながら、学習意欲の向上にも結び付けていくことが大切になってくる。</p>	基礎的・基本的事項を重視した授業改善の取り組み	<p>・ 生徒・教職員アンケート結果を踏まえた興味・関心を持たせる授業改善と生徒の意識改革。</p> <p>・ 家庭学習習慣化のための宿題・課題等の生徒への提示及び宿題確認テストを通じた長期休業中における自宅学習の喚起。</p> <p>・ 調査週間における勉強時間の確保及び補習補充授業の継続的確保。</p> <p>・ 科目選択にあたり、進路と結び付けられるような指導の工夫。</p>	<p>・ 生徒の授業アンケートの分析など職員研修を行い共通理解を深め課題を明確にすることができたか。</p> <p>・ 定期考査や宿題確認テストでの検証。</p> <p>・ 調査週間にいて勉強時間が確保できたか。</p> <p>・ 科目選択に関し、生徒へ効果的な指導が行えたか。</p>	<p>・ 授業の理解度は、アンケート結果から「よく理解できる」「理解できる」をあわせると約60%である。また授業のレベルについての項目でも、現状でよいと考えている生徒が非常に多く、授業は各教員の工夫によって適切な水準で展開されている。この結果については、職員全体で確認し、共通理解をはかった。</p> <p>・ 学習習慣の定着のため、小テスト、宿題等の日常的な取り組みや長期休業明けの宿題確認テストを実施した。</p> <p>・ 補習授業等の取り組みも例年通り行った。調査前の勉強時間の確保については、アンケート結果からも概ね確保はできている。</p> <p>・ 科目選択については、多くの生徒が進路を考えながら科目を選択することができている。また新教育課程の1年生については、来年度実施する科目選択をアンケートという形で実施した。早めに考えさせるという点で大変有効であった。</p>	B	<p>・ 日常的に授業に真面目に取り組み、定期考査前に集中して勉強するという基本的な学習習慣については、多くの生徒が確立していると言える。しかしながら予習復習の状況などを見ると、受け身的な勉強の生徒が多い。生徒の状況をより正確に把握し、授業改善を進めるためにも、引き続き生徒へのアンケートを実施し、職員研修会等で共通理解を深めていくことが重要である。</p> <p>・ 学習意欲の向上のため、日常的な取り組みを継続して行うことが大切である。宿題確認テストについては、自宅学習定着のための一つの方法として今後の成果を見守っていく必要がある。</p> <p>・ 補習授業等への参加も継続的に行っていく必要がある。調査前の勉強時間確保については、更に環境を整えていく事が大切である。</p> <p>・ 新教育課程での科目選択については、選択する科目が増え、進路との関係がより重要になってくるので、進路を考えたよりよい選択ができるよう引き続きガイダンス等で指導していく必要がある。</p>	<p>・ 生徒は、どの授業にも真面目に取り組んでいる。予習に取り組むと授業に取り組む姿勢が変わる。生徒会等で「教科別予習の仕方ガイド」を作成することもいい。授業は、生徒と教員の双方で作るものであり、授業中のやりとりが大切なもので、お互いにやりとりができる準備をして授業を作る努力が必要である。</p> <p>・</p>
2	<p>・ 生徒は落ち着いた学校生活を過ごしており、挨拶などもしっかりできていて、服装がよく守られている。中学校や近隣地域から、基本的生活習慣について良好な評価を得ている。</p> <p>・ 新入生歓迎会、体育祭、向陽祭、三年生を送る会の企画・立案・運営</p>	生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る	<p>・ 教員間の共通理解と協力体制の確立。</p> <p>・ 教員と生徒の信頼関係に基づいた指導。</p> <p>・ 朝の立哨指導や授業始めの巡回指導、定期的な服装指導などの継続的な指導。</p> <p>・ 社会生活におけるマナー向上に努めさせる指導。</p> <p>・ HRを基礎として生徒会本部・各委員会が論議</p>	<p>・ 共通理解と協力体制をつくられたか。</p> <p>・ 信頼関係を効果的につくられたか。</p> <p>・ 立哨指導、巡回指導、服装指導、全校・学年集会での啓発指導が実施できたか。</p> <p>・ 社会の一員としての意識を改善し、マナー向上に取り組めたか。</p> <p>・ 生徒会活動が全校生徒の参加を視野に入れ</p>	<p>・ 生徒指導に関する連絡を密に行い、全教員に理解と協力を求めた。</p> <p>・ 一人一人丁寧に時間を掛け、納得の上進める指導を根気強く行った。</p> <p>・ 立哨指導、巡回指導は全教員の当番制で毎日毎時間実施しており、服装指導、集会も随時全教員で当たっている。落ち着いた雰囲気を保てた。</p> <p>・ 全校集会、学年集会、クラス担任を通して、マナー向上を頻繁に呼び掛け、少しずつ効果を上げている。</p> <p>・ 各行事の原案作成・運営について生徒会本部を中心に組織的に運営</p>	A	<p>・ 落ち着いた学校生活を継続させていくためには、今までのような指導を粘り強く続けていき、引き続き教員間の共通理解を深めていくことが大切であると思われる。全教員の更なる協力の下、落ち着いた学校生活の基盤をこれからも築いていきたい。</p> <p>・ 社会生活におけるマナー向上に努めさせることを継続していくことが今後の課題である。登下校の自転車等交通マナーの改善や公共場所でのエチケットの励行、SNS利用の際の注意喚起が必要である。</p> <p>・ 生徒会が中心になり原案作り、運営を行い「参加型」で行事を創ることはとても大</p>	<p>・ 落ち着いた学校生活が好循環していることは、教員の指導が生徒から信頼されていることが基礎にある。引き続きSNSについて学習・指導の場をつくり、その危険性を理解して使うことが必要である。</p> <p>・ 生徒会行事は、毎回盛り上がっている。生徒会の頑張りがよくわかる。</p>

	<p>を生徒が組織的に運営するスタイルが定着している。また、HRに呼びかけ、全校生徒が積極的にかかわる「参加型の行事づくりは、全校生徒に浸透してきている。生徒要望アンケートでも「向陽高校の一番の魅力」について「行事が盛んである」が第1位となるなど行事への期待が高まっている。</p> <p>・部活動が盛んで84%の生徒が3年間部活動を継続している。</p>		<p>を深め、組織的な運営を推進する。</p> <p>・意欲、向上心を高める部活動の推進とそのための環境整備の推進</p>	<p>て原案作成、提案、実施を組織的に運営できたか。</p> <p>・部活動加入率の維持向上ができたか。</p>	<p>するスタイルが定着したものとなっている。前年度の総括を受けて「全校生徒の参加型」の行事として取り組むことで全校生徒を視野に入れることを具体化してきた。3年生を送る会では、1・2年生による合唱に取り組み、体育祭については、今年度も引き続き、生徒会主催行事として体育祭実行委員会を立ち上げ運営し、クラスTシャツ・応援団旗の作成を取り入れクラスの団結を強めた。向陽祭についても大規模改修中の準備を工夫し、各クラスが企画を盛り上げた。また、行事以外にも食堂の改善など日常的なものへの取り組みなどにも力を入れた。</p> <p>・今年度も壮行会を工夫して取り組んだ。今年度も昨年度同様加入者は80%を越えている。昨年にも引き続き、全校をあげての部活動加入率の向上を目指す意識を確立した。</p>	<p>切なことであるので継続をする必要がある。また、生徒の自主性を育てる教職員の取り組みも継続する必要がある。食堂の改善については、全校アンケートをもとに食堂と話し合いをした。結果として、新しい業者のメニュー作成に大きな助けになったと思われる。今後も日常的な課題に取り組むことが自治意識を育てるために大切なことである。</p> <p>・部活動の条件整備の要望に答えるように、部活動予算に配慮をして、生徒会予算ではまかなえない部分を、引き続き、PTAに協力を求めたい。</p>	<p>行事をつくりながら、今の若い人にとって大事な「居場所」を作り出しているということであろう。PTAも生徒会と連携して盛り上げて生きたい。</p> <p>・食堂の改善について今後も生徒会との話し合いを持ち、生徒のニーズを活かしていくことが求められている。</p> <p>・生徒の生徒会行事に対する期待が年々アンケート等を見ても大きくなっていることは、とても喜ばしい結果である。生徒会としても中学生に「胸を張って向陽出身だといえる学校」であることを学校説明会等で発信していきたい。</p>
<p>3</p>	<p>・進路に関して高い目標を持つ生徒が増えてきているが、受験準備を開始するのが遅い傾向にある。</p> <p>・生徒自らが進路に関しての情報収集ができるように1年次から進路に関する情報だけでなく収集方法についても伝達していく必要がある。</p> <p>・一般入試にチャレンジする生徒が増加してきており、受験校指導なども充実させていく必要がある。</p>	<p>生徒一人一人が主体的に取り組む実現する進路選択</p>	<p>・宿題確認テストを毎学期実施し、個人成績票を配布することで、部活動に取り組みながらも早い段階から進路への意識が持てるよう指導する。</p> <p>・実力テスト、模試などの実施時期や実施内容などを検討する。</p> <p>・進路指導室や進路情報誌を生徒が活用できるよう進路だよりなどを利用して情報を生徒に伝達する。</p> <p>・情報機器やインターネットサービスなどを利用して進路指導ができるよう環境を整備する。</p>	<p>・毎学期宿題確認テストを実施後成績票を生徒に配布し、学年団等の教員との連携が図れたか。</p> <p>・実力テストや模試の実施時期や内容が見直せたか。</p> <p>・進路指導室や進路情報誌の活用が増えたか。</p> <p>・教員の情報環境を整備することができたか。</p>	<p>・英・数・国の3教科の宿題確認テストを各教科の協力のもと1・2学年で毎学期に実施できた。成績票の配布も行った。</p> <p>・3学年の校内センター模試でICレコーダーを活用できた。1学年では全員対象の進研模試を実施した。</p> <p>・3年生では校内で実施の模試への参加者が若干増加した。</p> <p>・3学年全クラスに蛍雪時代増刊号を配布した。進路便りを1月までに9号発行した。その中で進路情報誌の内容を紹介した。</p> <p>・持ち出し自由の学校案内など、多数利用されていた。</p> <p>・3年生対象の小論文指導を国語科だけでなく全校的に対応・指導できる体制を構築できた。</p> <p>・担任の進路指導に活用できるようファインシステムを10台導入した。</p>	<p>B</p> <p>・宿題確認テストへの生徒の取り組みがまだ十分といえる状況になっていない。宿題点検を含め教科担任との連携を図りたい。</p> <p>・1・2年生では希望者対象の校内模試への参加を促すため、部活動顧問と連携し、参加できる環境を整えたい。</p> <p>・各教室へ配布した進路情報誌の活用は活発とはいえない。担任から進路HRを通して働きかけできるようにしたい。</p> <p>・一般入試にチャレンジする生徒の数は昨年度の水準を保った。生徒が安易に進路選択を行わないよう、担任を中心に指導できるようにしていきたい。</p> <p>・データの蓄積不足もあり、ファインシステムがあまり十分に活用できなかった。利用方法の研修会の実施を検討していきたい。</p>	<p>・進路に関しては、新しい試みがたくさんあり、積極的な指導が行われていることがよくわかる。</p> <p>・校内模試、オープンキャンパスへの参加を促進していくために進路を優先できるように部活動等の配慮が必要であろう。</p> <p>・職業選択について保護者への情報も提示して欲しい。</p> <p>・どんな進路に進んでも自分から学ぶことができる人間になることが求められている。そのため、学習と進路選択は、結びついていることを大切にしたい。</p>
<p>4</p>	<p>・PTA・後援会の行事は、RTA役員会・理事会が中心となり積極的な活動が行われている。体育祭やマラソン大会の給水支援や正門前花壇の花植えなど生徒の成長を支援するための事業が企画されるなど学校とのかかわりは、円滑に行われている。さらに役員以外の方のPTA活動へのかかわりを広げていくことが課題である。</p> <p>・向陽高校をよくする会（学校評価懇話会）での教員、生徒、保護者、地域の意見交換は、それぞれの当事者性を持った内容で行われ、生徒の成長を励ます教育的な場として深められている。また、学校の現状に対する相互理解の場として定着している。さらに協議しやすいテーマを工夫していきたい。</p>	<p>保護者と連携した地域にかかわる学校づくりの推進</p>	<p>・本部役員・各委員会の委員長と委員会担当の教員との連絡・協議を密にし、学校の実情に基づいた取り組みとなるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p> <p>・引き続き生徒を成長させることを中心に意見交換を行うとともに学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。</p> <p>・事前に協議内容についてそれぞれ内容説明を行い、当日の進行が円滑に行えよう取り組む。</p>	<p>・本部・各委員会の計画立案に、その委員会の理事と委員会担当教員が組織的にかかわることができたか。</p> <p>・引き続き生徒要望アンケートに取り組み、向陽高校をよくする会へ生徒の取組みが分かる情報を報告し、意見交換の内容がそれぞれ生徒、保護者、教職員に還元され、共通理解を深める取組みが行われたか。</p> <p>・それぞれ事前に参加者と打ち合わせを行ったか</p>	<p>A</p> <p>・どの委員会も委員長と担当教員が連絡を取り合い、計画立案から行事の運営等組織的に進めることができた。また、今年度新たに、体育祭とマラソン大会での給水活動や、校門花壇の花植えも行った。</p> <p>・生徒要望アンケートの分析に基づき意見交換を行った。今年度は、昨年度からの流れで食堂メニューの改善など意見交換の中身が具体的に実現した。また、今年も、授業、進路などについて生徒の視点からの要望、保護者、学校評議員の立場からの意見交換を行うことができ、本校の実情と課題を共有することができた。</p>	<p>・引き続き生徒理解を深め、学校の実情にあった活動とするために、今後も本部委員会と担当教員が連絡を取り合い、活動案の作成を行ってほしい。</p> <p>・PTA授業公開を学校説明会と同日程で行うことや校門花壇の花植えは生活委員会を中心に取り組みを継続させていくことなど運営のあり方を検討していきたい。</p> <p>・体育祭、マラソン大会での給水活動など生徒と直接関わり、子ども理解を深める行事を来年も継続し、運営上の改善を行いたい。</p> <p>・本校の生徒理解を深めるために引き続き、生徒要望アンケートに取組み、意見交換を丁寧に行い、それぞれに還元していくことが必要である。また、意見交換のテーマについて参加者がそれぞれの当事者性を発揮できるものとなるよう整理していくことが求められている。</p>	<p>・PTAとして生徒と関わる取組みを行って生徒の様子が良く分かった。これからも給水活動など生徒と直接かかわる取組みを続けて行きたい。</p> <p>・人間向陽高校をよくする会は、学校の現状を知る上で本当に重要な場となっている。とりわけ、生徒と保護者、学校評議員、教職員での意見交換は、当事者性を持って自分自身の学校との関わり方を振り返り、考えることができる貴重な役割を果たしている。</p>